

第2期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果 国立大学法人旭川医科大学

1 全体評価

旭川医科大学は、医療の質の向上、地域医療への貢献を推進するため、高い生命倫理観を持ち高度な実践的能力を有する医療職者を育成するとともに、生命科学に関する先端的な研究を推進し、高度な研究能力を持つ研究者を育成することを目指している。第2期中期目標期間においては、大学と地域社会や国際社会との連携を図り、社会に開かれた大学を目指すこと等を目標としている。

中期目標期間の業務実績の状況は、「財務内容の改善に関する目標」の項目で中期目標の達成状況が「不十分」であるほか、それ以外の項目で中期目標の達成状況が「良好」又は「おおむね良好」である。業務実績のうち、主な特記事項については以下のとおりである。

（教育研究等の質の向上）

外部資金獲得につながる研究を助成する「独創性のある生命科学研究」を学内にて公募した結果、科学研究費助成事業に採択された件数及び採択率がそれぞれ増加しているほか、国内外の医療機関と遠隔医療ネットワークを形成して診療・手術の指導や術中迅速病理組織診断等を行うリアルタイムでの遠隔医療及び、MRI・CT・X線等の遠隔画像診断等を行う非リアルタイムでの遠隔医療を実施している。

（業務運営・財務内容等）

産学連携活動に対するシームレスな学内支援体制を確立するなど、事務組織の見直しによる大学の機能強化を図っているほか、病院の質を高めるため、特定非営利活動法人が実施する「働きやすい病院評価事業（ホスピレート）」を受審し、認定を受けている。

一方で、財務内容の改善に関する1事項について、中期計画を十分には実施していないと認められる。また、財務内容の悪化を招いた財務マネジメント上の課題があったことから、改善に向けた取組が求められる。

2 項目別評価

I. 教育研究等の質の向上の状況

<評価結果の概況>	非常に 優れている	良 好	おおむね 良好	不十分	重大な 改善事項
(I) 教育に関する目標			○		
①教育内容及び教育の成果等			○		
②教育の実施体制等			○		
③学生への支援			○		
(II) 研究に関する目標			○		
①研究水準及び研究の成果等			○		
②研究実施体制等			○		
(III) 社会連携・社会貢献 国際化等に関する目標			○		
①社会との連携や社会貢献			○		
②国際化			○		

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（3項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

①教育内容及び教育の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（15項目）のうち、1項目が「良好」、14項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 地域医療実習の充実

看護学科では、平成24年度に保健師教育課程が選択制に移行し、従来、必修科目であった「地域保健看護学実習Ⅰ・Ⅱ」が、選択科目の「公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ」に移行している。これに伴い、保健師を選択しない学生の地域医療に関する学習内容を保証するため、地域包括支援センターや介護施設における体験型実習を取り入れた「高齢者看護学実習」、訪問看護ステーション等で実習を行う「在宅看護学実習」を必修科目として導入している。従来の「地域保健看護学実習Ⅰ・Ⅱ」がそれぞれ60、30コマであるのに対して、「高齢者看護学実習」は120コマ、「在宅看護学実習」は60コマと増加し、地域医療実習の充実を図っている。

②教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(5項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

③学生への支援に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標(5項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に関する中期目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

①研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(6項目)のうち、1項目が「良好」、5項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 学長裁量経費による研究助成

第2期中期目標期間(平成22年度から平成27年度)に、学長裁量経費により外部資金獲得につながる研究を助成する「独創性のある生命科学研究」を学内にて公募している。この結果、平成22年度と平成27年度を比較すると、選定した個別研究のうち、科学研究費助成事業に採択された件数は10件から22件へ、採択率は31.3%から66.7%へそれぞれ増加している。

②研究実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(6項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(Ⅲ) その他の目標

(1) 社会連携・社会貢献、国際化等に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「その他の目標」に関する中期目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

①社会との連携や社会貢献に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献に関する目標」の下に定められている具体的な目標(3項目)のうち、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 地域医療従事者の知識及び技能等の向上への貢献

臨床シミュレーションセンター(CSC)を地域医療従事者の医療技術の習得や技能等の向上に貢献するため開放している。CSCの開放について、ニューズレターであるCSC通信をウェブサイトに掲載するなど情報提供を行った結果、地域医療従事者の延べ利用人数及び貸出延べ利用人数の合計は最大で平成24年度までに200名程度であったところ、平成25年度には323名、平成27年度には1,488名へ増加している。

○ 国内外の医療機関と遠隔医療ネットワークの形成による遠隔医療の件数の増加

道内を中心に国内外の医療機関と遠隔医療ネットワークを形成しており、診療・手術の指導や術中迅速病理組織診断等を行うリアルタイムでの遠隔医療、MRI・CT・X線等の遠隔画像診断等を行う非リアルタイムでの遠隔医療を実施している。これらの医療支援の充実を図ることにより、遠隔医療ネットワークを形成している国内外の医療機関数は59件となっており、遠隔医療の実績数は、平成23年度までに3,000件程度であったところ、平成24年度には4,437件、平成27年度には5,866件となっている。

②国際化に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「国際化に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(2) 附属病院に関する目標

学内外の医療従事者を対象とした復職支援や生涯学習支援を行うとともに、看護の質を高めるために認定看護師養成を推進するなど、地域医療を担う医療従事者の知識・技能等の向上のために積極的に取り組んでいる。また、臨床研究支援センターを整備するなど、臨床研究支援体制の強化を図り、基礎研究シーズの臨床応用を推進している。診療面では、道内を中心とした国内外59の医療機関とネットワークを形成し、遠隔医療システムを運用するなど、地域間の医療格差の是正を図っている。

<特記すべき点>

(優れた点)

(教育・研究面)

○ 地域医療従事者に対する医療水準向上への支援

平成22年度から、地域医療従事者対象の派遣講座や看護師のための復職支援研修（平成25年度から助産師も対象に追加）を実施するとともに、平成24年度から、看護師等を対象とした生涯教育講座、平成25年度から、他施設新人看護職員研修や訪問看護ステーション看護職員のための生涯学習支援研修を実施している。また、学外者向けに開放している臨床シミュレーションセンター及び図書館において、第2期中期目標期間にそれぞれ2,084名、459名の利用があるなど、地域の医療従事者の医療技術の習得、知識・技能等の維持・向上を支援している。

○ 看護の質を向上させるための認定看護師等の養成

看護師の知識と技術の向上により病院の看護の質を高めるため、認定看護師養成課程の受講経費を支援しており、第2期中期目標期間に認定看護師を12名養成している。また、主治医の指示を必要とする行為である「診療の補助」を行える特定行為研修について、1名が道内で初めて修了している。

(診療面)

○ 遠隔医療の展開による地域医療等への貢献

平成23年度に、遠隔医療ネットワークを用いて、血流波形の動画伝送等、新たな生体情報を収集・解析・共有するためのクラウド型データセンターを構築している。道内を中心に国内外59の医療機関とネットワークを形成しており、リアルタイムでの遠隔医療（診療・手術の指導や術中迅速病理組織診断等）及び非リアルタイムでの遠隔医療（MRI・CT・X線などの遠隔画像診断等）により地域医療に貢献し、平成24年度以降は年間4,000件以上の実績を挙げている。

○ 外来における安全な医療の提供体制の整備

外来患者の誤認防止策をフロアごとに試行した結果を踏まえ、平成24年度から、電子カルテ内に「病院外来患者照合システム」の機能を内包し、運用を開始したことにより、外来における安全な医療を提供している。

(運営面)

○ 産前・産後の職員等に対する就労環境支援

復職・子育て・介護支援センター（略称：二輪草センター）において、従前の「病後児保育室」の対象を病児まで拡大し、平成26年度から「病児・病後児保育室」として運用しており、利用者数は延べ208名（平成26年度～27年度）となっている。また、医療職員の就労環境を改善するため、産前・産後の特別休暇を取る職員の代替措置として、期間雇用職員を雇用可能にするなど、産前・産後職員等に対する就労環境を支援している。

Ⅱ. 業務運営・財務内容等の状況

<評価結果の概況>

	非常に 優れている	良 好	おおむね 良好	不十分	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化		○			
(2) 財務内容の改善				○	
(3) 自己点検・評価及び情報提供		○			
(4) その他業務運営		○			

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化

【評定】中期目標の達成状況が**良好**である

(理由) 中期計画の記載10事項すべてが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 戦略的・効果的な資源配分

拡充した学長裁量経費（平成27年度は1億6,876万円（対平成22年度比6,876万円増））を活用して外部資金獲得等につながる研究を支援し、科研費の採択金額が増加（平成27年度は約2億4,800万円（対平成22年度比約6,700万円増））するなど、戦略的・効果的な資源配分を行っている。

○ 事務組織の見直しによる機能強化

病院の訴訟に係る事務に対応するため、平成23年度に病院法務係を新設し、突発的、緊急・重大な事案に対応している。また、平成26年度に研究戦略、研究支援、国際貢献及び社会連携に係る企画立案等を機動的・戦略的に行う研究支援課を設置することで学内研究情報の一元化を図り、産学連携活動に対するシームレスな学内支援体制を確立するなど、事務組織の見直しによる大学の機能強化を図っている。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄付金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、③資産の運用管理の改善

【評定】中期目標の達成状況が**不十分**である

(理由) 中期計画の記載6事項中5事項が「中期計画を十分に実施している」と認められるが、1事項について「中期計画を十分には実施していない」と認められるとともに、財務内容の悪化を招いた財務マネジメント上の課題があったこと等を総合的に勘案したことによる。

<特記すべき点>

(改善すべき点)

○ 財務内容の悪化を招いた財務マネジメント上の課題

財務内容の悪化を招いた重大な財務マネジメント上の課題について、平成26年度評価において評価委員会が重大な改善事項があると指摘していることから、現在改善に向けた取組は実施されているものの、引き続き再発防止に取り組んでいくことが求められる。

(法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる事項)

○ 中期計画の未達成

「経費削減策等検討プロジェクトチームで管理的経費の削減方策について検討を進め、経費を抑制する。(実績報告書28頁・中期計画【89】)」については、平成27年度に財務担当理事を任命し財務委員会を新設するなど、予算管理・執行体制を見直すことにより収支状況は黒字に転じているものの、平成26年度には収入が当初予定額を下回る状況だったにも関わらず下半期の支出の見直しが十分には行われず、短期借入れを合計4度にわたり実施するという深刻な事態を招いていることから、中期計画を十分には実施していないものと認められる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期目標の達成状況が良好である

(理由) 中期計画の記載2事項すべてが「中期計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 病院の質向上へ向けた外部評価の受審

働きやすい病院を目指し、医師・看護師に対する自学支援を行う復職支援の実施や24時間保育所の設置等の改善によって病院の質を高めるため、特定非営利活動法人が実施する「働きやすい病院評価事業(ホスピレート)」を平成23年度に受審し、認定を受けている。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守

【評定】 中期目標の達成状況が良好である

(理由) 中期計画の記載5事項すべてが「中期計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 情報セキュリティの強化

平成24年度から外部の専門家による「情報セキュリティポリシーに係る講演会」を毎年度実施しているほか、病院内のWi-Fi機器のセキュリティ対策として、認証サーバーで承認された機器のみを使用可能とするとともに、平成26年度から病院情報システムで使用できるUSBメモリは、使用申請を行い、承認・登録されたものに限定し、データ持ち出しを行う際には強制的にデータが暗号化されるようにするなど、情報セキュリティの強化を行っている。